

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 6 部門第 2 区分
【発行日】令和 3 年 3 月 11 日 (2021.3.11)

【公表番号】特表 2020-507129 (P2020-507129A)
【公表日】令和 2 年 3 月 5 日 (2020.3.5)
【年通号数】公開・登録公報 2020-009
【出願番号】特願 2019-556566 (P2019-556566)
【国際特許分類】

G 0 2 B 5/20 (2006.01)

G 0 2 B 5/02 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 5/20

G 0 2 B 5/02 B

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 12 月 25 日 (2020.12.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

発光器又は受光器の一方又は両方と、
前記発光器又は前記受光器の一方又は両方に隣接する光学フィルターと、
を備えるシステムであって、前記光学フィルターは、
可視光を散乱させるように構成された波長選択性散乱層と、
前記発光器によって放射される、又は前記受光器によって受光される光の色偏差を補償
するように構成された所定の透過帯域を有する波長選択性反射層と、
を含む、システム。

【請求項 2】

前記波長選択性散乱層は、近赤外光を透過するように構成されている、請求項 1 に記載
のシステム。

【請求項 3】

前記透過帯域は、約 400 ~ 約 600 nm の波長を中心とする狭帯域を含む、請求項 1
~ 2 のいずれか一項に記載のシステム。

【請求項 4】

前記発光器又は前記受光器の一方又は両方は、近赤外域内の動作波長を有する、請求項
1 ~ 3 のいずれか一項に記載のシステム。

【請求項 5】

前記波長選択性散乱層は、入射可視光の約 50 % 未満を透過し、前記波長選択性散乱層
は、入射近赤外光の約 50 % 超を透過する、請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載のシステ
ム。

【請求項 6】

前記波長選択性散乱層は、入射可視光の約 50 % 超を散乱させる、請求項 1 ~ 5 のい
ずれか一項に記載のシステム。

【請求項 7】

前記波長選択性散乱層は、第 1 の屈折率を有する光学媒質を含み、前記光学媒質は、複
数の粒子を含み、前記複数の粒子は、第 2 の屈折率及び約 5 μ m 未満の平均粒径を有し、

前記第 1 の屈折率と前記第 2 の屈折率との絶対差は、約 0 . 1 未満である、請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載のシステム。

【請求項 8】

前記波長選択性散乱層は、第 1 の屈折率を有する光学媒質を含み、前記光学媒質は、複数の粒子を含み、前記複数の粒子は、第 2 の屈折率及び約 1 μm 未満の平均粒径を有し、前記第 1 の屈折率と前記第 2 の屈折率との絶対差は、約 0 . 2 未満である、請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載のシステム。

【請求項 9】

前記波長選択性散乱層は、第 1 の屈折率を有する光学媒質を含み、前記光学媒質は、複数の粒子を含み、前記複数の粒子は、第 2 の屈折率及び約 0 . 5 μm 未満の平均粒径を有し、前記第 1 の屈折率と前記第 2 の屈折率との絶対差は、約 0 . 4 未満である、請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載のシステム。

【請求項 10】

前記波長選択性散乱層は、少なくとも 25 % の可視ヘイズを有する、請求項 1 ~ 9 のいずれか一項に記載のシステム。